# テーマ「大人が支える！インターネットセーフティの推進」

インターネットセーフティ
PRキャラクター「うまホ」

実施主体：秋田県教育庁生涯学習課
協力団体：子どもたちのインターネット利用について考える研究会（子どもネット研）
※【座長】お茶の水女子大学教授　坂元　章
【事務局】ヤフー株式会社、ネットスター株式会社、アルプスシステムインテグレーション株式会社
【運営協力企業】ピットクルー株式会社
秋田県PTA連合会、各郡市PTA連合会、各市町村教育委員会

## 《取組の概要》

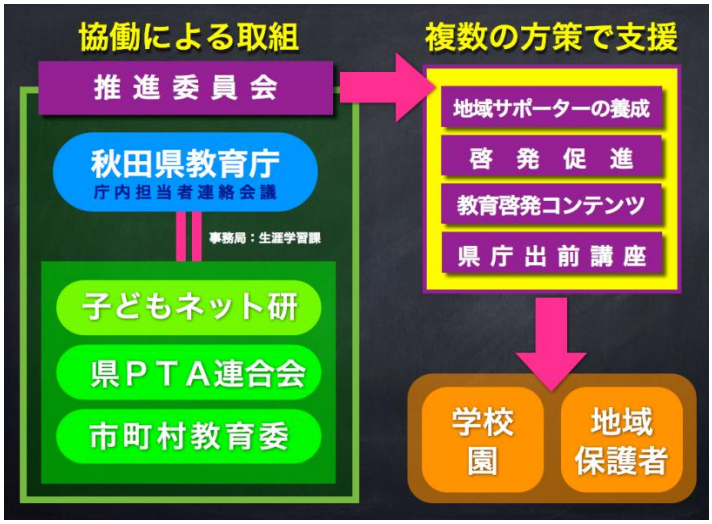
子どもたちのインターネット利用の問題を家庭教育の一つの課題として、社会全体で子どもたちをインターネットによる有害情報やトラブル等から守り、インターネットを健全に利用できるよう、安全で安心な利用環境を整える「インターネットセーフティ」の普及啓発と仕組みづくりについて、複数の取組方策により、民間等と協働で推進する。

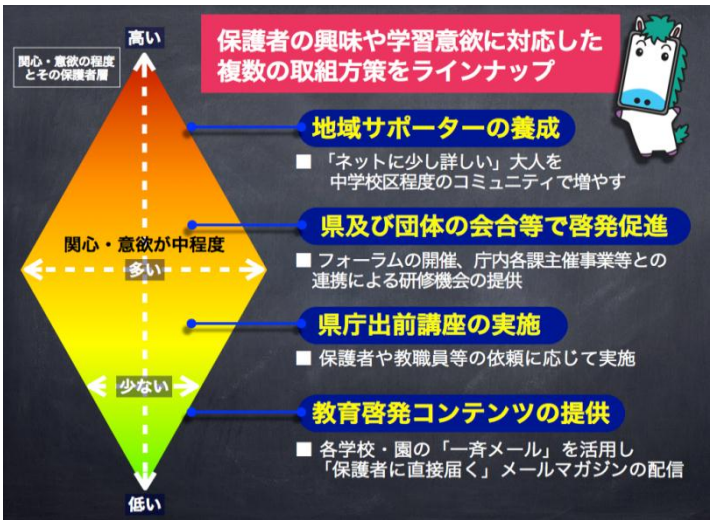
## 1　本事業の趣旨

スマートフォン等の普及により、子どもたちを取り巻くインターネット環境は大きく変わり、「ネットいじめ」や犯罪等、様々なトラブルに巻き込まれる危険性が問題となっている。一方、保護者はこうしたネット機器やサービスになじみがなく、その便利さや怖さに対応できず、子どもとの向き合い方に自信がもてない状況にある。

このことを、家庭教育支援の課題の一つと捉え、社会全体で子どもたちをインターネットによる有害情報やトラブル等から守り、インターネットを健全に利用できるよう、安全で安心な利用環境を整える「インターネットセーフティ」を推進する。

## 2　事業の推進体制と取組方策



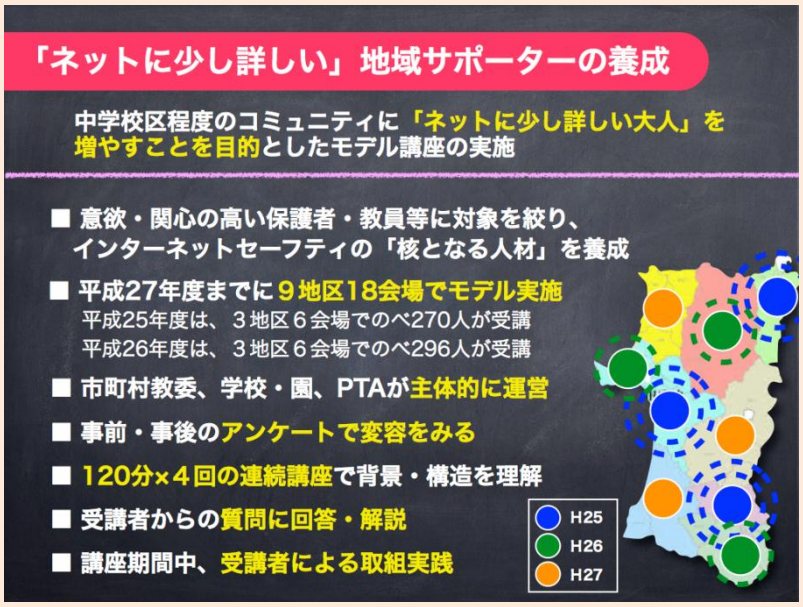

この取組は、民間による専門家会議「子どもたちのインターネット利用について考える研究会」（座長：国立大学法人お茶の水女子大学教授　坂元 章、以下「子どもネット研」）の他、秋田県PTA連合会等との協働が大きな特徴である。

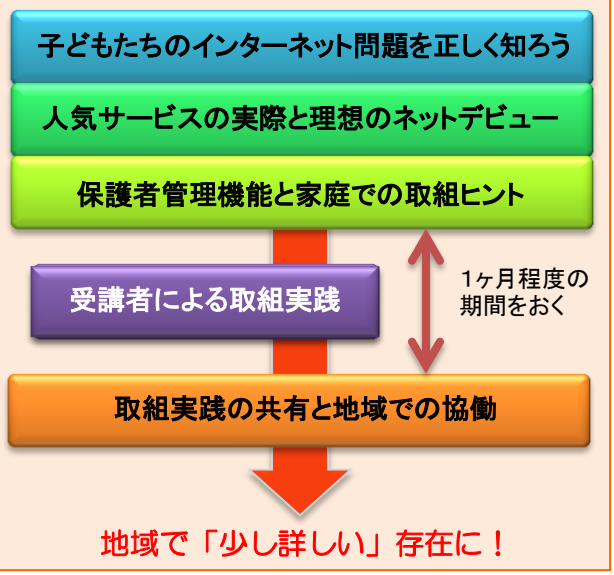
- 県は、事業の全体計画立案、市町村・学校等との調整や進捗の管理、基礎的な講座（出前講座）の講義等を担当
- 子どもネット研は、教育啓発コンテンツ作成や実践的な講座（地域サポーター養成講座）等を担当

## 事業成功へのポイント

| | |
|---|---|
| 家庭教育支援（保護者の教育啓発） | 全県的体制の構築、複層的啓発手法で、「健全・活用」を地域ぐるみで支援 |
| 民間との協働による取組の推進 | 子どもネット研との協働により、明確で効率的な役割分担 |
| 「ネットに少し詳しい大人」の輪 | 子どもネット研の理論・研究成果をもとに、実効性のある人材づくりを展開 |

# ３ 主な取組方策－１　「ネットに少し詳しい」地域サポーターの養成について




## 地域に「少し詳しい大人を増やす」ことのねらい

子どもたちのインターネット利用の問題は、しつけや基本的生活習慣と同様に、家庭教育の重要なテーマの一つである。

課題解決には、保護者や地域の大人がこの問題に関心を持ち続けるための継続的な教育啓発、地域・社会とのつながりの中で子どもと向き合うことのできる仕組みづくり（人づくり・地域づくり・絆づくり）等が必要である。

地域サポーター養成講座のねらいは、顔の見える範囲内に、インターネット利用の問題も普段の家庭教育の問題の一つだと教えてくれたり、困ったときには相談に乗ってくれたりする大人が、確かに存在する地域づくりにある。

受講者は、家庭や地域でこの問題と向き合い、実際に取り組むことのできる「地域の核」となる人材であることから、対象者を学習意欲や関心の比較的高い保護者層に絞った。また、問題の背景や基礎知識等が十分に得られるよう、発展的な内容で構成された連続講座とした。

「少し詳しい大人」というキャッチフレーズは、講座のこうした特徴やねらいを端的に示したものである。

## 参考：従来型安全教室との違い

- 計8時間の連続型研修会で少数保護者を「少し詳しい」大人に→地域全体に影響

| | 地域サポーター養成講座 | 学校等で開催される従来型の保護者向けインターネット安全教室 |
|---|---|---|
| 開催規模 | 比較的小規模（20-50名） | 学校全体、学年全体（100名超） |
| 開催時間 | 連続型（4回）で計8時間<br>背景や構造をじっくり学ぶことで「少し詳しく」 | 単発型で30分から1時間以内<br>事例の紹介による注意喚起が中心に |
| 参加対象者 | 希望する保護者のみ<br>興味関心や学習意欲の高い熱心層 | 保護者全員<br>意欲や課題意識のバラつきが大きい |
| 研修会の進行 | 双方向要素の重視<br>受講者間によるグループワークを含む | 講師からの一方通行が多い<br>疑問や不安の解消が困難 |
| 受講者への期待 | 読解力の獲得、各家庭での実践、周囲の保護者のサポート | 最新状況の理解、各家庭での実践 |

6

資料提供：子どもネット研

## 講座実施の詳細

**◎講座企画・運営時に重視すること**

- 限られた時間の中「実際にできること」につなげていく
- 「継続的な学びの必要性」への気付き
- 基礎的な読解力を身に付ける場
- 参加発信型利用リスクとその背景の理解・対処に焦点

**◎今年度の主な修正・改善点**

- 一回あたりの開催時間を延長
  ※グループワークの時間配分を拡大
- メッセンジャーアプリ普及と利用トラブルへの対応

**◎カリキュラム概要（今年度）**

**●第1回） 状況・課題**

**「子どもたちのインターネット問題を正しく知ろう」**

インターネット活用力が地域にもたらすもの、つながる機器、発信トラブルの実際と背景、グループワーク

**●第2回） 背景・構造**

**「人気サービスの実際と理想的なデビュー」**

質問の解説、人気サービスの共通構造、オンラインコミュニケーションの特性、段階的利用モデル、グループワーク

**●第3回） 対処方法**

**「家庭での取り組みヒント」**

質問の解説、保護者管理機能の実際、家庭での機器の与え方や子どもとの接し方、グループワーク

**●第4回） 実践支援**

**「取り組み実践の共有と地域での協働」**

質問の解説、取り組みの成功・失敗例の共有、当該地域での協働のあり方、グループワーク

## 成果と課題

**【成果】**

- 地域密着型手法と効果測定の実践
- 他地域への波及（全国フォーラム等で事例報告）
- 受講者発案による保護者学習会の追加開催（大館市城南児童会館）

**【課題】**

- 講座の企画運営の改善～受講者拡大への工夫
- 指導者の養成～市町村での持続的取組を目指す
- 受講者のフォローアップ（情報更新）とネットワーク化
- 市町村事業への支援～学習機会の枠組みを示す

## 地域サポーター養成講座のめざす姿

現在は、子どもたちのインターネット利用の問題についての正しい知識、大人の役割や家庭・地域での取組のヒントなどを広めてくれる地域人材として期待している。

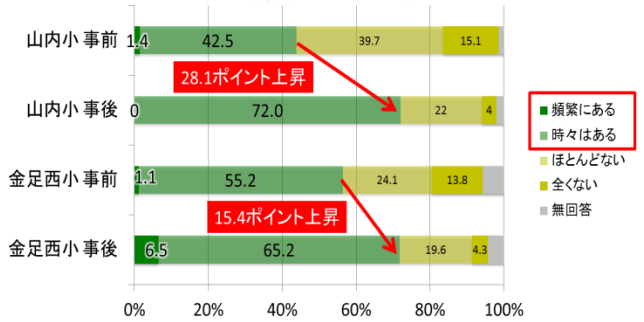
将来的には、保護者間のつながりや地域ぐるみで子どもを支え見守る環境づくりを進める「地域の担い手」として、地域の方と連動して講座をコーディネートしたり講師を務めたりできる、「より詳しい」人材の養成である。

H25地域サポーター養成講座

### 講座実施の成果の例

（保護者間の相互作用が活発化）

問い：お子さんのインターネット利用の様子や、お子さんへの機器（携帯電話など）の与え方（タイミングなど）が、他の保護者の方との間で話題になることがありますか？




事前調査は平成25年9月、事後調査は平成26年3月にそれぞれ実施。各校保護者を対象にした質問回答用紙の配布回収方式。山内小（4-6年生の保護者）：事前n=73／事後n=50、金足西小：事前n=87／事後n=46

地域サポーター養成講座

### 効果測定の新たな試み

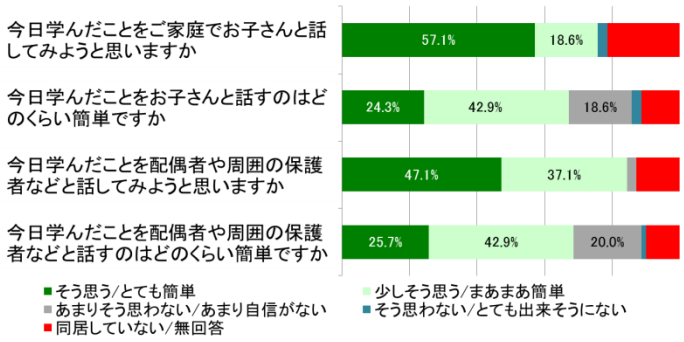
- H25年度
  - 受講者の満足度・理解度 → 受講者アンケート結果
  - 地域全体の変化 → 全保護者向けアンケートの事前事後結果比較
- H26年度
  - 受講者アンケート → 行動変容に関する質問項目を追加
    - 受講直後時点での「行動意図」、「行動の容易さ」を聞くことで行動変容を予測
  - 「子どもと話をしてみようと思う」など【行動意図】は総じて高スコア
  - 「どのくらい簡単か」など、【行動の容易さ】は中程度のスコア
  - 行動支援ツール充実や、教材・指導方法の一部見直しを検討

**◎受講者アンケート**
**行動変容に関する質問とその結果（第二回講座を例に）**

地域サポーター養成講座

### 第二回講座の効果（行動変容）

【サブタイトル】 人気サービスの実際と理想的なインターネットデビュー
【主な内容】 サービスの実際、機器ごしコミュニケーション、理想のデビュー

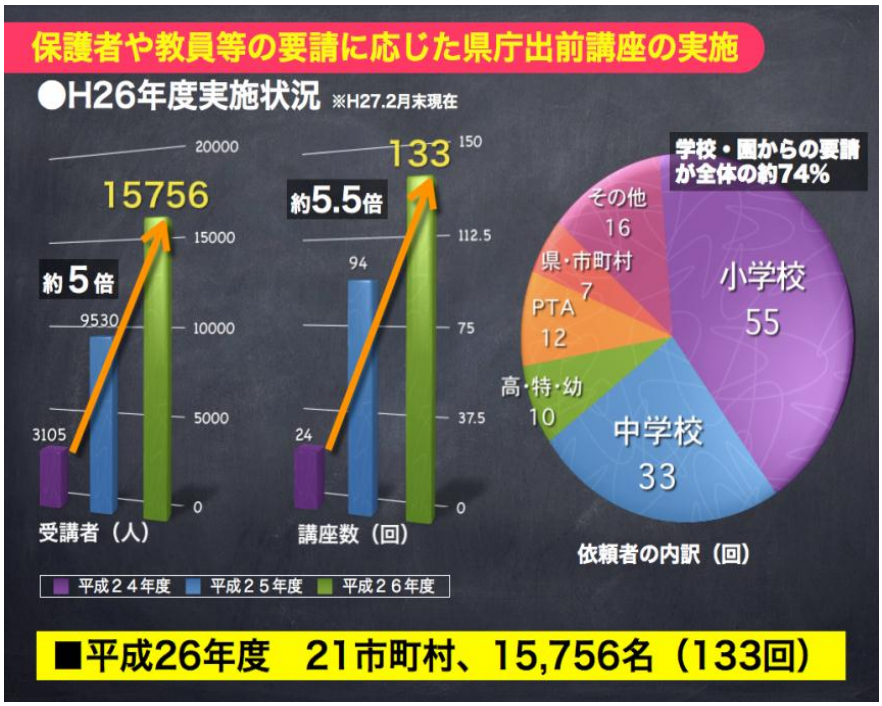



資料（3点）提供：子どもネット研

## 昨年度受講者の現在

県内3会場で昨年度受講者による交流会を実施した。そこでは、子どもたちのインターネット健全利用に関する新たな情報や課題の共有（フォローアップ）、学校・家庭・地域の核となる人材のネットワークづくりを目的に協議・交流（ルールづくりに関するワークショップ）を行った。

## 4　主な取組方策－２　県庁出前講座の実施について




### 講座実施の詳細

■主に保護者や教員を対象に、要請に応じて随時、実施している
■要請数は年々大きく増加傾向にあり、学校やPTA等の危機意識の大きさがうかがえる
■講師は生涯学習課社会教育主事の他、各教育事務所・出張所社会教育主事とも分担
■内容は「子どもたちのネット環境急変」「子どもたちに人気のサービスとインターネットトラブルの実際」「理想のネットデビュー」「家庭や地域での取組」等について
■サービスの実際やトラブル事例について、実機を用いて実演
■１回につき60～90分
■H26年度は2月末現在で、21市町村（25市町村中）、15，756名（133回）
　※H25年度　20市町村、9，530名（94回）

### 実機によるインターネットサービスの実演

　インターネット機器の多様化や進化が著しいため、子どもたちが利用する機器や人気のサイト、ソフトウェア環境等について、十分に理解している、あるいは自らも利用している保護者・教員は多くない。そこで、「サポーター養成講座」はもちろん、県社会教育主事が講師を務める出前講座においても、実際に携帯型ゲーム機やスマートフォン等を用いて、インターネットにつながる様子や、子どもたちに人気のサービス等で起こり得るトラブル等を実演している。
　特に、２台のスマートフォンの画面をそれぞれスクリーンに投影し、メッセンジャーアプリでの実際のやり取りや、グループから退会させられるトラブルの疑似体験（右の写真）は、子どもたちの利用状況をより強く実感できると、受講者に好評である。

## 5　今後の展開（継続・発展させていくために）

　子どもたちのインターネット健全利用には家庭や地域への啓発が必要であり、今後も家庭教育支援の重要な取組の一つと考える。そのため、保護者や地域の大人がこうした問題に関心を持ち続け、地域ぐるみで子どもを支えられるよう、庁内各課、県関係機関、市町村教育委員会、民間組織やPTA団体等と連携・協働し、「インターネットセーフティ」の推進を引き続き図っていく。
　具体的には、県庁出前講座の実施や啓発リーフレットの作成・配布、メールマガジンの配信等により、保護者や教員等を対象とした教育啓発に継続して取り組む。また、地域の核となる「地域サポーター」の養成については、モデル実施から持続可能な取組への展開、受講後のフォローアップやネットワークづくりを進めるため、市町村の家庭教育事業の一つとして展開されるよう、市町村担当者等と講座や事業企画・内容について情報の交換と共有を重ね、その体制づくり支援に努めていく。

## 6　参考資料等


●秋田県教育庁生涯学習課「大人が支える！インターネットセーフティの推進について」（秋田県公式HP「美の国あきたネット」）
　http://www.pref.akita.lg.jp/www/genre/0000000000000/1371701668736/index.html
　※上のHPから次のデータがダウンロードできます。広くご活用ください。
　・小学生／中・高生用リーフレット「インターネットを安全に使うために知っておくべき四つのポイント」
　・リーフレット「インターネットセーフティガイド」（平成26年3月版）
　・インターネットセーフティPRキャラクター「うまホ」データ
●子どもたちのインターネット利用について考える研究会HP
　http://www.child-safenet.jp/
●課題解決エンジンレポート08　Think Future Act Local「地域活動が、子どもたちの未来をつくる」（ヤフーのCSR）
　http://csr.yahoo.co.jp/report/volume8/3.html